



◆◆◆◆ 他の人のために生きることを教える ◆◆◆◆

皮肉なことに、人は自分が幸せになることばかり考えていると、決して幸せにはなれません。でも、他の人の幸せのために生きようとすると、とても幸せな人生を送ることができるのです。

先日、タイで長年ボランティア活動をしておられるご夫妻にお会いしました。彼らは、山間部で暮らす少数民族の中で支援活動をしていて、何年かぶりにご両親に会うために一時帰国されていました。私がタイでの厳しい生活を想像して、「住み慣れた日本の生活を捨ててタイの山奥でボランティア活動をしながら生活することは、さぞかし大変でしょう!」と言うと、ご主人が本当に嬉しそうに自分たちの生活の楽しさについて話してくださいました。

「タイには、およそ4万5千人の日本人が暮らしていますが、ほとんどは日本の企業から派遣されて来た人たちです。だから、勤めが終われば再び日本に帰って行くんです。ただし最近では、退職後に物価の安いこのタイの国で悠々自適の年金暮らしを考える人たちが急増しています。そういう人たちは、素晴らしい家に暮らし、ゴルフ三昧の日々を送るわけですが、何年かするとその満ち足りた生活に飽きてしまい、ほとんどの人たちが計画を変更して日本に帰って行くんです。でも、私たちのようにボランティア活動をしている人たちは違います。喜んでくれる人たちの顔を見ていると毎日ほんとうに充実感があって、いつまでもここで活動を続けていきたいと思うわけです。」

話を聞きながら、私は自分の子ども達のことを考えていました。というのも、彼らは近い将来、就職活動をして社会に出て行く年齢ですが、どんな職業に就くにせよ、それが人として本当に喜びを感じられる仕事であってほしいと思ったからです。



◆◆◆◆ ドイツの子育てから学ぶこと ◆◆◆◆

ドイツから来られたベックさんご夫妻と親しくなり、先日はお宅にお招きいただきました。ベックさんには4人のお子さんがいらっしゃるの、私は、ドイツ人の子育てについていろいろお話をうかがうことができると思い、わくわくしながら出かけに行きました。

「早速ですが、ベックさん、ドイツの子育てと日本の子育てには基本的な違いがあるのでしょうか?」「はい、日本と比べてドイツでは、かなり個性を尊重する個人主義の子育てを心がけていると思います。例えば日本では、皆がやっているからという理由で習い事をさせたり塾に行かせたりということが多いような気がしますが、ドイツでは皆が同じようなことをすることはあまりないと思います。」「そうですか。ではドイツでは、子どもの個性を尊重して、子ども達を自分のやりたいようにさせているということですか?」

「いいえ、そうではありません。ドイツの家庭では、日本と比べ物にならないくらい規則を厳しく守らせるし、かなり積極的に子どもの個性に介入するんです。」「え! 個性に介入するっていうのは、具体的にどういうことですか。」「はい。実は、ドイツではこんな言い方があるんです。子どもの個性を伸ばしたいなら、植物を育てるように、最初のうちは添え木になりなさいと言うんです。そうでないと、子ども達はまっすぐに育っていけないからです。ただしその添え木は、親の勝手な思いや願いであってはなりません。つまり、子どもの個性や持っている才能を無視した方向に向けて、そちらに傾けるのではありません。子どもに時間をかけて関われば、その子の持っている個性や能力が見えて来るので、それを最大限に伸ばしてやるために添え木になってあげるといったことなんです。そして、褒めたり励ましたり、時には厳しく叱ったりしながら、神様から与えられているその子の個性や能力を最大限に伸ばしてやるためのサポートをするというのが、ドイツ流の個人主義の子育ての基本だと思います。」 私は、いつも自分がラジオ番組でお話ししていることと余りにもよく似ていたの、思わず意気投合して何時間も盛り上がり過ぎてしまいました。

